

選手・チーム役員・応援および保護者配付用

感染拡大防止ガイドライン

【様式に関わる提出資料等および詳細に関わることは、後日、大会公式ホームページに掲載】

本ガイドラインは、「新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドライン」(徳島県ハンドボール協会および日本ハンドボール協会)及び「新型コロナウイルス感染症状況下での安全なハンドボール競技活動について～選手・スタッフ・関係団体のためのガイドライン～2022.05.10第4版」((公財)日本ハンドボール協会)等を踏まえて、現段階で得られている知見等に基づいて作成しています。

本ガイドラインは、第31回記念大会JOCジュニアオリンピックカップハンドボール大会の開催に当たって作成しております。また、今後の知見の集積及び新型コロナウイルスの感染状況により、随時見直すことがあり得ることにご留意ください。

1 大会開催における基本的な実施判断基準について

(1)大会開催にあたっては、大会実行委員会および会場施設の方針に従う。

(2) 体育館内では、換気など適切な感染防止対策を講じた上で実施する。

2 大会参加申込時の留意事項

主催者は、感染拡大防止のために参加者が遵守すべき事項を明確にして、協力を求める。参加者の安全を確保するため、これを遵守できない参加者には大会への参加を取り消したり途中退場を求めたりすることがあり得ることを周知する。

(1) 保護者の同意

①チーム責任者の確認事項

(ア) 大会に参加する選手とその保護者が、事前に本ガイドラインをもとに感染症対策への同意を得ていることを同意書にて確認する。「大会参加同意書」

(イ) 「大会参加同意書」に必要事項を記載して、チーム責任者が保管する。

②感染の不安から参加を希望しない選手については、無理に参加させない。このことについては、全ての指導者に対し周知する。

(2) 体調管理

①引率責任者は、「健康チェックリスト」(様式1)を作成する。

②参加チームは入館時に、「健康チェックリスト」(様式1)を提出し確認を受ける。「健康チェックリスト」(様式1)を忘れたチームの参加は認めない。当日の体温を測ってこなかった者に対しては、大会当日の受付にて非接触式体温計で検温し、問題なければ入場を認める。

③「健康チェックリスト」(様式1)は、会場施設に提出するもののため、参加日ごとに提出して、会場施設の預かりとなる。

(3) 参加不可となる条件

以下の事項に該当する選手やチーム役員等は、大会に参加できない。

「大会参加チーム健康チェックリスト」で確認を行う)

①体調がよくない場合(例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合)

保健所等の判断で「コロナウイルス感染症ではない」との診断があれば出場を認める。ただし、当日 37.5℃以上の発熱をしている場合は、出場及び入場を認めない。

②新型コロナウイルス感染者との濃厚接触があると判断された場合

③同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合

過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航または当該在住者との濃厚接触がある場合

④選手やチーム役員が濃厚接触者や大会前 14 日以内に上記のような新型コロナウイルス感染症が疑われる症状が見られた場合は、主催者に対して、速やかに連絡すること。 また、保健所等の指導・指示を必ず受け、参加が認められた場合のみ参加チームの責任者の責任と判断のうえ、参加を認める。保健所等の診断がない場合は、どのような場合であっても参加は認めない。

3 大会参加者が準備・実施すべき事項

(1) 参加者が行う感染拡大防止

①マスクの着用

参加選手を含む大会関係者は全員マスクを持参し、競技等実施時・飲食中を除いてマスクを着用する。(熱中症等の健康被害が発生する可能性が高い場合は外す)

②こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施する。また、手を拭くためのマイタオル持参する。特に、入館時のアルコール消毒、試合や食事の前後の手洗いを必ず行う。

③飲食物やタオルは個々に用意し、応援または保護者等で配付をしたり共用したりしない。

④競技等実施時を除いて、人と人との距離を確保する。(できるだけ 2m を目安に、最低 1m)大会中は大きな声での会話、応援等をしない。

⑤感染拡大防止のために主催者が決めたその他の措置を遵守し、主催者の指示に従う。

(2) 大会運営に関する事項

【開閉会式について】

①開閉会式は行わない。※開始式を監督会議後、表彰式を準決勝終了後と最終日に行う。

【入退館について】

①自チームの試合がある会場のみ入場可。チーム入館時刻は、1 試合のチームは、8：20 から受付開始・入館とする。1 試合目のチーム以外は、9：00 から受付開始・入館とする。いずれも、チームでまとまって入館する。

②チーム役員は入館時に、「健康チェックリスト」(様式 1) を提出し確認を受ける。

③最終試合終了後、30 分以内に退館をする。

【観客について】

- ①実行委員会が人数制限および入退場時間を定めた観客制限試合とする。その際、運営協力者のみ入場を認める。（詳細は後日 HP に掲載）
- ②選手がケガ等で救急対応等を必要とする場合は、該当保護者のみ特別に緊急入館を認める。その際は、受付にて口頭での健康チェック及び検温を行ってからの入館となる。
- ③原則、競技に参加する選手および出場チームの関係者のみが入館できる。
- ④徳島県内の感染状況や会場の施設規定により、急遽、大会実行委員会から無観客試合または入場人数削減等の通達を出す場合がある。

【競技中の注意事項】

- ①プレー中も選手、役員等同士の接触機会を減らすよう、以下の点に配慮する。
チーム役員は、このことをチームに周知し徹底を図る。
- ②ウォームアップ中は、(特に集団で)大きな声を出さないようにする(集団走は控える)。
- ③試合前などの円陣やベンチでの集合時においても、できるだけ密集・接触を避ける。
- ④競技前に仲間と手をつないだり肩を組んだり、ハイタッチをする等の円陣は禁止する。
- ⑤競技中、靴底を手で触らない。
- ⑥ベンチでは離れて座る。必要以上の私語は慎む。
ベンチ幅は椅子の間隔を保つため、主催者が定めた競技規則外の幅で設置する。
- ⑦タオル、水ボトルなどの共用は禁止する。
- ⑧選手は、ベンチ移動する際、個人の持ち物を各自で準備した袋に入れて管理する。

【用具等の消毒について】

- ①チェンジコートの際、使用したベンチを大会実行委員で消毒する。両チームベンチの消毒が終わってから交代したベンチを使用する。
- ②試合終了後も使用したベンチの消毒を大会実行委員会が行う。
- ③次チームは競技役員による用具の消毒等が終わった後、指示にしたがいコートに入る。

【大会中の健康管理】

- ①チーム責任者は、選手の体調不良の有無を確認する声かけを行うなど、集合時から解散時までこまめに選手の健康観察を行う。
- ②自チームの試合終了後、チーム役員は選手等の健康観察を口頭等で行う。
- ③選手の体調不良や救急搬送等の事態が発生し、保護者の同意や意向聴取等が求められることも想定し、チーム責任者は保護者と確実に、速やかに連絡が取れる体制を構築しておく。

【その他】

- ①会場内の移動は、密を避けるため各会場の指示に従う。
 - ②トイレ等は、定められた場所を使用する。また、選手が密となりえる集団となってトイレを使用しないよう配慮する。
 - ③観客席は、着席した際に一定の距離が保てるよう、荷物の置き方など配慮する。
 - ④通路の手すりや壁に触れないように移動する。また、通路やトイレでは必要以上の時間立ち止まることなどは控えて、歩行者との接触がないように注意する。
- 4 主催者が準備・実施すべき事項
- (1) 手洗い場所
 - ①石鹸(ポンプ型)、手洗いに関するポスター、アルコール等の手指消毒剤を用意する。
 - (2) 更衣室、休憩・待機スペース
 - ①ゆとりを持たせることが難しい場合は、入室する人数を制限する等の措置を講じる。
 - ②換気扇を常に回す、換気用の小窓を開ける等、換気に配慮する。
 - ③控え室等を使用する際は、入退室の前後に手洗い又は手指消毒を行う。
 - (3) 飲食
 - ①飲食物を手にする前に、手洗い、手指消毒を行うよう声を掛ける。
 - ②YGKドーム・とくぎんトモニアリーナについては、飲食場所は観客席のみとし、広さにゆとりを持たせ他の者と密にならないようにする。

- ③アミノバリュホールについては、周囲の人と十分な距離を確保できないため、観客席での飲食を禁止とする。そのため、3F和室を解放しますので、2足制厳守でご利用ください。なお、1度に3チーム分の人数しかご利用できませんので、譲り合いながらお願いします。
 - ④飲食は必要最小限にとどめ、指定場所以外では行わず、周囲の人となるべく距離を取って対面を避け、会話は控えめ(原則、私語禁止)にするよう指導する。
 - ⑤飲みきれなかったスポーツドリンク等を指定場所以外に捨てないように指導する。
 - ⑥選手等の飲食はチーム役員の実務においてさせるとともに、ゴミはすべて持ち帰らせる。
- (4) ゴミの廃棄(ゴミは持ち帰りが原則)
- ①鼻水、唾液などが付いたゴミは、個人が準備した袋に入れて密閉し縛った上で持ち帰らせる。
 - ②万が一ゴミを回収する際には各チームで準備したマスクや手袋を着用し、鼻水、唾液等が付いたゴミは各チーム持参のビニール袋に入れて密閉し、処分する。
- (5) その他
- ①公共交通機関を利用する場合は、マスクの着用を徹底し、近距離での会話を控え、会場(自宅・宿泊施設)到着後は、顔をできるだけ触らずに、速やかに手を洗う。

5 当日の受付時の留意事項

- ①発熱や軽度であっても咳・咽頭痛等の症状がある人は入場しないように呼び掛けること。
- ②参加者がマスクを準備しているか確認をすること。

6 参加選手またはチーム役員(関係指導者)の感染が判明した場合の対応

(1) 大会前

- ①当該参加選手とチーム役員は、陽性となった者と濃厚接触者であると保健所から指定された者(同一世帯内での感染者発生の場合も含む)については、当該感染者の発症日を0日として7日間(8日目解除)とするが、4日目及び5日目に抗原定性検査キットを用いた検査で陰性を確認した場合は、5日目から解除を可能とする。よって、それまでは大会に参加できない。チーム内で陽性者が出た時点で、大会までに濃厚接触者の判定が出ない場合においては抗原定性検査キットを用いた検査で陰性を確認した場合は参加できる。

(2) 大会期間中

- ①発熱者本人は抗原検査。抗原検査の結果陰性であれば、特に措置なし。
- ②抗原検査の結果陽性であれば、他の参加者は抗原検査を実施し、陰性結果が得られた者のみ参加可。なお、この件に関しては、相手チームから陽性者が出た場合も適用し、試合に参加した選手全員に抗原検査を実施して陰性であれば出場可とする。
- ③上記①②で陰性となった場合でも、当日 37.5℃以上の発熱をしている場合は、出場及び入場を認めない。

(3) 大会後

- ①14日間は健康観察記録を継続し、感染者が出た場合は所属する学校や関係機関の指示に従う。
- ②選手及びチーム役員が大会後、2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して、速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること。
- ③感染者が発生した場合、感染者を特定しようとすることやSNS等で誤った情報を発信することのないよう、全ての関係者に対して指導する。